

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172700492		
法人名	社会福祉法人 誠由会		
事業所名	グループホーム ハピネス狭山		
所在地	埼玉県狭山市富士見2-16-8		
自己評価作成日	平成23年3月18日	評価結果市町村受理日	平成23年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年4月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>建物の5階という特性上、見晴らしがよく、富士山を眺めることができる。その人らしい生活をして頂けるよう、見守り重視のケアを実践し、出来るだけ自立した日々を過ごしていただけるように支援している。 買い物、散策など、外出の機会を多くとるように努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日常の利用者ケアの中で、利用者の情報や職員の意見・要望は全て「連絡ノート」に集約され、情報の共有化と職員間のチームワークが図られている。また、事業所での利用者の様子や事業所内の様々な出来事などを「ラブレター」という名称で広報し、利用者・家族からも喜ばれている。また、家庭的な落ちついた共用空間づくりがなされており、利用者が腰をかけてくつろがれる場所を設けたり、ベランダの菜園で、利用者と一緒に野菜や花を育てるなど、様々な工夫がなされている。 H21年度の目標達成計画(災害対策)は、消防署の指導のもと、事業所の状況に適した避難方法やマニュアルが作成され、避難訓練も実施された。(運営に関する利用者、家族等の意見の反映)については、運営推進会議への家族の参加を呼び掛け、意見や要望がいただける環境作りを行うなど、目標達成への取り組みが行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前からある施設理念とは別に、職員間で意見を出し合い、グループホームの理念を作成した。ミーティング及び業務時に職員間で理念の再確認、徹底を図るよう心掛けている。	利用者への思いを取り入れ、わかりやすい言葉で、新しい独自の理念が創られ、自分たちの介護の振り返りに利用されている。常に利用者の生活リズムを守り、居心地良く、安全に生活できるよう、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会と交流を図り、夏祭り等の地域行事に参加している。 ボランティアも受け入れ、週一回来訪していただき入居者の方々と交流を図っていただいている。	事業所の納涼祭に地域の住民に参加を呼びかけたり、自治会の祭りには、こちらからも参加し、相互交流に努められている。また、近くに住む元利用者の家族がボランティアで来所されるなど、地域とのつきあいが図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、納涼祭を開催している。また、流しそうめん大会を8月に行い、ご家族、地域の方に参加していただき、交流を図っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の取り組みを報告し、意見交換を行なっている。テーマによって、地域の方々にも相談し、助言を受けたことは、ミーティング等で職員に伝達し、サービス向上に活かしている。	定期的で開催され、参加者の地域住民との意見交換や、事業所の活動についての周知にも努められている。参加者からの助言や提案は、ミーティングなどで、職員にも伝えられ、運営に活かされるよう取り組みがなされている。	家族とのコミュニケーションが図られているので、運営推進会議に家族が参加されるよう、関心のあるテーマ作りや、事業所のイベントに合わせて開催するなどの取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事例検討会、研修に積極的に参加。市役所主催の実践研修にも参加し、意見交換を行なっている。運営上困難なことがあった際は連絡し、相談するなど働きかけをしている。	市担当者は運営推進会議にも参加し、事業所運営の報告をしたり、助言を受けるなど交流が図られている。職員も市主催のセンター方式の講習会にも、積極的に参加し、意見交換にも努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は立地条件上の理由で施錠対応だが、その他、身体拘束については開設以来一度もない。見守り重視のケアが身体拘束をしないケアにつながり、職員間でも徹底している。	利用者の喜怒哀楽を受け止め、「やりたいことを見守る」「できないことは、ちょっと手助けする」など、職員のペースで利用者の生活を縛らないことを前提に、すべての拘束をしないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力はもちろんのこと、言葉での虐待も無いよう、言葉使いにも注意してケアを行なうよう、ミーティングなどで話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階で必要な方はおられませんが、いつでも活用できるよう、資料を用意し、研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・計画作成担当者から十分な説明を行いご理解、納得を頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を都度呼びかけたり、定期発行物にも日時等を記載しお伝えしている。面会時に伺った要望等を職員へ伝達したり、運営推進会議の議題にあげたりして反映させている。	利用者や家族の要望は、積極的に傾聴し、事業所の運営にも取り入れられている。また、事業所での利用者の様子を「ラブレター」という形で届けられており、家族からも喜ばれ、相互交流も図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議・ミーティングで話し合い、提案された意見をケアに反映している。また業務内においても、職員間で常に話し合える機会を設けるよう努めている。	日常的に職員の意見は「連絡ノート」に集約され、意見・提案はミーティングでも話し合いがなされている。「利用者のために、本を揃えたい」との意見をもとに、家族にも呼び掛けて、本が集まり、利用者に喜ばれた事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇のほかに特別休暇あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修での経験を活かし、職員ひとりひとりの能力に応じた職員育成を行っている。また、外部研修にも積極的に参加できるような体制を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の協議会や外部研修、情報交換会などに参加し、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たっての事前情報を職員間に伝達、共有するとともに、日常生活のなかで、コミュニケーションを図りながら、不安、要望等に耳を傾けて、支援に活かすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、ご家族の要望等を伺い、支援の方法を提案。来訪時に様子を伝えたり、再度要望を伺ったりしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極める為、職員間で話し合いを行なう。必要ならご本人やご家族の意見を再度伺い、支援に反映するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の状態を把握し、ご本人が楽しみ、喜びを感じられるよう、また、生きがいとなるような役割を持って生活していけるよう支援を心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時、積極的に話す機会を設けている。また、必要な情報をご家族にも提供し、日ごろの生活を把握していただき、ともに支えていく関係を築くよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に買い物や散歩やドライブに出掛けている。また写真入りで年賀状送付や月一回の広報を発行。電話や返信があったり、遠方より訪ねてこられたりされる方もいる。	教員だった利用者の教え子との年賀状や電話のやり取りを支援するなど、なじみの関係継続への取り組みがなされている。また、以前、利用者の馴染みだった、事業所出入りの米屋との交流を支援するなどの配慮もなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物を干したりたたんだり、食器を洗ったり、調理の下ごしらえなど、日常生活の中で共同で作業していただいている。そのなかでも、互いの関係を把握し、孤立しないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族さまにも行事などに参加していただいている。また、ボランティアとして、週1回程度、入居者の方々と交流を図ってくださっている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、本人の思いや、暮らしの要望などをご家族やご本人に伺い、生活暦の情報収集するよう努めている。	利用者に様々な話題や情報を話しかけることで、「その人がどうありたいのか」の把握に努められている。また、新聞や折り込みチラシから、意向の把握につなげられたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人の生活歴などご家族に記入していただくシートが有る。必要なら、それまでのケアマネージャーとも連絡を取って情報収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の勤務の上で、申し送りや連絡ノートを通じて職員間への伝達および情報を共有することで状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来訪時に情報をお伝えしたり、面談等を行う。意見や要望は連絡ノート等で職員へ伝達。職員間でも話し合い、意見やアイデアをあげ、計画作成担当者が介護計画作成に反映している。	「連絡ノート」による職員の日常的な気づきや家族からの情報などをミーティングで話し合い、計画作成担当者が調整し、介護計画が作成されている。チームケアで対応し、意見やアイデアも計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日々の生活記録を元に、気づいたこと、発見したことなど職員間で情報を共有して介護へ実践している。また必要ならミーティングを活用し職員間での徹底を図る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	だいたいの起床時間はあるが、特に設けていない。就寝時間も同様。その人らしい生活を送っていただけるよう心掛けている。ご家族訪問時間も基本的にはいつでも可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の魚屋、ドラッグストア、スーパーなど散歩をかねて買い物に出掛ける。また、事業所の下階には歯科医院や美容室があり、日ごろから利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に通院介助をしていただいている。その際、日ごろの生活情報を提供し受診していただいている。必要とあれば書面にて事業所より情報を伝えている。	医療機関の選択は自由であり、家族による通院受診に対しては、利用者の日常の健康状態の情報を医師に提供し、また、医師からのアドバイスも受けるなどの支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所のデイサービス看護職員に情報を共有していただき、相談、処置等の連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族またはお見舞い等で訪問した職員から情報を提供を受けたり、病院関係者、ソーシャルワーカーなどと連絡を取りあったりして情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに関して、ミーティング等を含め、職員間では日ごろから検討をかさねている。ご家族にも個別に面談等話し合う機会を設けて、事業所側のできることをご説明しながら今後の方針を考えていただいている。	事業所としてできること、できないことを説明し、利用者・家族の考えや要望をよく聴き、話し合いを重ねることで、情報の共有と相互理解を図り、支援に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の消防・避難訓練を定期的に行なっている。災害時の連絡と協力体制の組織化を図っている。地域にも事業所の5階という特性を理解して頂けるよう、広報誌等で情報を発信している。	消防との連携をとりながら、建物の5階という事業所の実情に適した避難防災体制が構築され、それをもとに避難訓練も実施されている。また、広報誌などで情報発信を行い、地域住民への協力も呼び掛けている。	災害発生は予測不可能なことから、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、訓練への参加の呼びかけを行い、地元の協力者の確保や、役割分担を構築するなどの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心、安全はもちろんのこと、個々の生活歴やご家族からの情報を元に、好きなこと、嫌いなこと、介護に対する要望、願いなど把握し、その人が中心となるような対応を心掛けている。	時間による束縛はせず、職員が利用者一人ひとりの生活ペースを理解し、利用者本位のケアがなされている。また、利用者の意思も尊重し、「触れられたくないことには触れない」の考えのもと、プライバシーの確保にも配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、選択できることはご本人に選択して頂けるような声かけ、対応に努めている。また、喜怒哀楽の感情が出せる、自分らしさが出せるような環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりとコミュニケーションをとりながら、要望等を聴き、その時々で臨機応変に対応するように心掛けている。食事のメニュー、買い物、散歩など入居者のニーズに合わせて一日をすごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着る洋服はその人に任せている。衣類の購入等は、職員やご家族様と一緒に選びながら洋服を買い物していただいている。理美容に関しては当事業所に有り、定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを把握しつつ、メニューは職員と入居者とで一緒に考えている。時にはホットプレートを用い、皆の目の前で調理するなど、視点をかえることで楽しい食事を演出し、皆によるこぼれている。	食べたい物を、利用者のペースで、ゆっくり口から食べていただくことが大切と考えられており、ホットプレートでお好み焼きを利用者の目の前で作るなど、食べるのが楽しくなる工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	だいたいの食事量や水分量は日々の生活記録に記入し、一人ひとりの状態把握に努めている。一日通して足りていないと思えるときは、その方の嗜好を考えながら、他の食材などで補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な方には職員が見守り、声かけなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄記録や排泄パターンを職員間で把握することや、表情やしぐさ等の言葉以外の部分からも察知して、声掛け、誘導をするよう心掛けている。	「利用者が排泄に対して、嫌な思いをしない取り組み」を基本に、利用者の排泄への意志を尊重し、尿取りパットなどの使用も無理強いはせず、また、同性介助に努めるなどの配慮もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄しやすいように水分摂取を促したり、食物繊維や乳製品等の排泄を促しやすい食材を献立やおやつなどに取り入れて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活暦をみると、基本的に夕食後に入浴をされている方が大半な為、それに合わせて19時以降の入浴を毎日おこなっている。要望があれば日中の入浴も対応している。	夕食後に入っていたり、正月は朝風呂を企画したり、利用者に入浴を楽しんでいたような様々な工夫がなされている。湯温管理、体調にも気を配り、それにより入浴時間を調整するなどの配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、個々に休息できるように対応し、本人のペースに合わせて、仮眠や休息を促している。起床や就寝時間もそれぞれ異なる為、個々に応じて声かけ、見守り等を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストで個々の服薬状態を把握している。また症状の変化があれば、その都度ご家族に連絡し、必要があれば受診をお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族やご本人からの情報を元に、一人ひとりの生活暦を把握し、それに応じた役割や出来ること、好きなことなどを職員間で検討し、支援に反映している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などを日々の生活の中に組み込み、ご希望があればドライブなどで遠出するよう心掛けている。また、季節に合わせた年間行事として、春のお花見や秋のミニ旅行など計画し、外出支援を行なっている。	バスをチャーターして、水族館にミニ旅行をしたり、「寿司が食べたい」という利用者の希望に合わせて、近隣の和食レストランや寿司屋に外出しに行くなど、幅広い外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から個人用にお金を預かり、買い物などの際、要望があればいつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	どなたでも要望があれば事業所内の電話にてお話できるよう支援している。また、手紙のやり取りも可能で、事業所内に郵便ポスト有り。ご自分、または職員に依頼で気軽に投函できる環境にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に畳敷きの和室を設けている。そこで気の合う方々で、思い思い、いろいろな話をしながら毎日洗濯物をたたんだり、また季節の祭事物(雛飾りなど)を飾り立て、日常生活の中に家庭的な雰囲気を取り入れている。	畳敷きの和室が利用者のくつろぎの場となっており、また、廊下には腰を下ろして休める居場所があり、利用者の居心地の良さへの配慮が見られる。ベランダ菜園では野菜を育て、利用者から作り方を聴くなど、利用者参加への取り組みもなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて、テーブルとソファの数を増加した。共用空間において、ご自分の好きな居場所の選択肢を増やしたことに伴い、思い思い自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居室内のレイアウトは使い慣れた家具や備品などを置いて、環境の変化の少ない、居心地のいい部屋になるようにご家族にも相談し、工夫している。	居室では、好きなように過ごしていただくために、これまでの生活との環境変化が少なくなるよう、家族の協力を得ながら、取り組みがなされている。自分のペースで読書を楽しまれる利用者もおられ、ベッドや家具類も利用者の使い慣れたものが配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で一人ひとりの情報を共有することで、できること、わかることを把握している。チームで見守り、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム ハピネス狭山

目標達成計画

作成日: 平成 23年 6月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を生かした取り組み	運営推進会議に家族が参加して頂く	運営推進会議の議事録等で内容を知っていたのと共に、引き続き定期的に運営推進会議開催の通知を行う。また、家族が関心あるテーマ作りや事業所のイベントに合わせて開催する。	12ヶ月
2	35	災害時における地域との協力体制	災害時の地元の協力者の確保	事業所の様子などの広報誌を掲示板に貼ったり、自治会回覧板などで伝えたり、イベントなどで地域の方々との交流を深めたりなど、認知症高齢者が生活している事業所ということを地域に周知する。また、地域の防災訓練などがあれば積極的に参加する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。